

三階建養蚕農家の主屋群

養父市大屋町大杉地区



ミニパンフ

兵庫県景観形成地区 平成 13 年 10 月 2 日指定
重要伝統的建造物群保存地区 平成 29 年 7 月 31 日選定

養父市大屋町大杉地区は兵庫県北部に位置し、氷ノ山に源を発する大屋川沿いにある重要伝統的建造物群保存地区です。大杉地区には、江戸時代後期から昭和 30 年代までに建てられた主屋や土蔵などの伝統的建造物が良好に残っています。主屋の中心は二階建や三階建の養蚕住宅であり、「養蚕を発展させた三階建養蚕農家主屋群を特徴とする但馬地域の山村集落」と評価されています。養父市の養蚕農家の主屋には、切妻造りの瓦葺屋根に抜気とよぶ換気装置があり、2階と3階の外壁は柱が見えない大壁造りとし、長方形の掃き出し窓を採用しています。

平成 13 年、大杉地区は兵庫県景観の形成等に関する条例で歴史的景観形成地区に指定され、養蚕集落として景観の維持が進められてきました。兵庫県景観形成地区は里山部分を含めた 11.1ha の範囲で、その中心部の 5.8ha が重要伝統的建造物群保存地区です。大杉地区の主屋 27 棟のうち 12 棟が三階建の養蚕住宅です。養父市大屋町は、兵庫県において最も養蚕業が盛行した地域であり、養父市内でも特に大型の三階建養蚕住宅が多く造られました。

平成 18 年度の調査では、養父市内に 495 戸の三階建養蚕住宅がありました。全国的にみると三階建養蚕住宅は極めて珍しい養蚕住宅であり、養父市では明治後期以降、養蚕の近代化とともに発達しました。大杉地区は、二階建と三階建の養蚕住宅が織り成す集落景観を保ち、養蚕業の最盛期の姿を良好に伝えています。

養父市大屋町では、近代養蚕業の先駆者が出現しています。蔵垣村の上垣守国は享和 3 年 (1803) に『養蚕秘録』を出版しました。また、糸原村の正垣半兵衛は東山 (大屋富士) の山麓に 3ha の桑畑を開墾し、出石藩から褒美として 3 人扶持を与えられました。和田村古屋の小倉寛一郎は明治 13 年 (1880) に群馬県富岡製糸場を見学し、自宅に富岡式の器械製糸場を開設しました。大杉地区の集落景観には、養蚕を巡る人々の生活と歴史が刻まれています。



空から見た養父市大屋町大杉地区

養父市大屋町大杉

養父市大屋町では「養蚕とアート」を活かした地域づくりを進めています。大杉地区では平成4年に三階建養蚕住宅を利用したふるさと交流の家いろりが開館し、平成7年から「うちげえのアートおおや」が開催されています。そして平成6年から公募展「木彫フォークアート大屋」が始まりました。また蔵垣には平成7年、養父市立上垣守国養蚕記念館が開館しました。さらに大杉地区では、平成16年に旧栃尾医院を改修した養父市立木彫展示館、平成20年に分散ギャラリー養蚕農家、平成27年には古民家の宿「大屋大杉」が開館しました。

瓦葺の養蚕住宅では、昼間は屋根瓦が熱せられて室温が上昇するため、2階と3階の窓を開いて通気性を高め、屋根に設けた抜気から熱気を逃がします。気温が下がる夜は窓を閉め、コンロに炭火を入れて温めます。2階と3階の外壁は柱を壁土で厚く塗る大壁造りです。窓は板戸と障子戸の二重構造で、換気と保温に対応した仕組みです。蚕は温度変化に弱く、全滅することも珍しくありませんでした。このため人と蚕が同じ屋根の下で暮らして細やかな温度管理を行いました。1階は家族が生活し、2階と3階が養蚕を行う蚕室となりました。また、大量の桑の葉を3階まで運び上げるために、土間上部の天井を3階まで四角く切り取り、屋根裏に滑車を取り付けた住宅もあります。養蚕住宅には養蚕に適した構造や様々な工夫があります。

大杉地区の養蚕住宅には、江戸後期から明治前期に建てられた茅葺の二階建を、明治後期から昭和初期に瓦葺の三階建に改修した事例が多数あります。岐阜県白川郷の合掌造り^{がっしょうづく}は、茅葺の養蚕住宅が発達して多層構造となったものであり、養父市の三階建は、瓦葺の養蚕住宅が発達して多層構造となり全国に誇る建築様式となりました。市内の棟札調査では、新築の三階建は明治22年に始まり昭和42年まで78年間も造られています。

重要伝統的建造物群保存地区は全国に115地区あります。その中でも大杉地区は、山村・養蚕集落として全国4地区目、近畿地方以西で初めて選定された西日本を代表する養蚕集落です。谷川の水を生かした集落が営まれ、二宮神社や大福寺、石垣や水路等と共に地方色豊かな歴史的風致を伝えています。明治・大正・昭和という時代の暮らしを支えた二階建や三階建の養蚕住宅のある集落景観は、養父市の農家の生活・文化・伝統・歴史が詰まった宝物です。

◇保存地区

名称	養父市大屋町大杉伝統的建造物群保存地区
所在地	養父市大屋町大杉字大杉ほか
面積	約5.8ヘクタール 大屋川左岸の東西約540m、南北約390m。
種別	山村・養蚕集落

◇選定の事例

全国では115地区、養蚕集落では全国4地区
群馬県中之条町六合赤岩・石川県白山市白峰
山梨県甲州市塩山下小田原上条
県下の選定事例（兵庫県下では5地区）
神戸市北野町山本通・篠山市篠山
豊岡市出石・篠山市福住



古民家の宿「大屋大杉」河辺家



高山社（群馬県藤岡市、世界遺産）



壁と窓が特徴的な大杉の三階建養蚕農家

上垣守国と小倉寛一郎

大屋では江戸時代後期に養蚕業が活発となります。大杉村の隣にある蔵垣村うえがきもりくにの上垣守国は明和7年（1770）から繭の生産地である福島県伊達市の佐藤家から蚕種を仕入れ、繭の品質向上と生糸の改良に務めました。その結果、生糸の品質が向上して丹後ちりめんの材料となり、横浜港開港後は輸出用生糸にもなりました。

享和3年（1803）、上垣守国は養蚕技術書の『養蚕秘録』ようさんひろくを江戸と大坂で出版しました。『養蚕秘録』はシーボルトがオランダに持ち帰り、嘉永元年（1848）フランス語に翻訳され、パリとトリノで出版されました。上垣守国は「日本の養蚕の父」と呼ばれています。

明治期になると、近畿地方でもいち早く大屋で器械製糸が始まります。明治13年（1880）和田村古屋の小倉寛一郎おぐらかんいちろうは渋沢栄一の案内により、群馬県富岡製糸場（世界遺産）を見学し、翌年には自宅にボイラー式の器械製糸場を建設しました。そして大屋の生糸が横浜港からヨーロッパに輸出されました。農家は養蚕を専業とし、企業は工場で製糸を行う分業体制によって養蚕業の近代化が進みました。

大杉の養蚕と群馬県高山社

群馬県藤岡市に高山長五郎たかやまちょうごろうが設立した高山社（世界遺産）で学んだ養蚕教師によって、近代的な養蚕方法である清温育や瓦葺の養蚕住宅が全国に普及しました。養父郡でも明治26年から大正5年までの23年間に高山社から延73人の養蚕教師が派遣され、大杉村では澤田和三郎が養蚕を指導しました。養父市の養蚕住宅は高山社から学んでいますが、群馬県には三階建や大壁造りなどはなく、養父市で独自に発達しました。大杉地区の三階建の特徴は新築が少なく、江戸後期から明治前期に建てられた茅葺や杉皮葺の二階建を、瓦葺の三階建に改造した事例が多いことです。

昭和期には養父市大屋町の道路が整備され、瓜原地区では製材所・文具店・精米所・畳屋・大工・左官・自転車屋・煙草屋など多くの商店が営まれました。一方、大杉地区では明治後期に栃尾医院が開業し、農家では養蚕・米作り・炭焼き・杉苗作りなどを営みました。

昭和前期には、大杉橋の右岸に繭の集荷場（現共同作業場の位置）が作られています。集められた繭は郡是製糸株式会社八鹿工場や片倉製糸紡績株式会社和田山工場に出荷しました。大屋の養蚕業は平成3年で最後となりましたが、現在は、大屋蔵垣かいこの里で年一回、6月初旬に蚕を飼育しています。

毎年8月16日、13時頃から大杉公民館で伝統芸能の大杉ざんざこ踊りが始まります。その後、二宮神社に移動して2時間に渡って太鼓の音が鳴り響きます。



瓦葺きの養蚕農家が連なる



古民家の宿「大屋大杉」正垣家



養父市立木彫展示館



大杉ざんざこ踊り（大杉公民館）



二宮神社



分散ギャラリー養蚕農家



大杉公民館・火の見櫓

大杉地区ガイドマップ

◆保存地区内の施設

養父市立木彫展示館

明治後期に建築された二階建の旧栃尾医院を改修した木彫の美術館です。養父市大屋で、平成6年から始まった「公募展木彫フォークアート・おおや」の歴代の優秀作品を常設展示しています。休館日は月曜日と火曜日で、入場料は中学生以上200円、小学生100円。TEL 079-663-8070。

分散ギャラリー養蚕農家

三階建養蚕住宅を利用した美術館です。絵画や彫刻など、アートの展示や販売をしています。建物は、江戸後期の茅葺二階建の農家を大正2年に養蚕のために瓦葺三階建に改修しています。カフェがあり、3階の見学もできます。休館日は月曜日、TEL 079-669-0026。

ふるさと交流の家いろり

三階建養蚕住宅の1階を利用した簡易宿泊施設です。食材を持ち込んで自炊ができます。6月下旬には大屋で活躍するアーティストたちによる作品展「うちげえのアートおおや」の会場になります。利用希望者は分散ギャラリー養蚕農家にご連絡ください。

但馬古民家の宿「大屋大杉」

三階建養蚕住宅を利用した宿泊施設です。正垣家は5部屋の客室とレストラン、河辺家は1棟貸しの宿です。「三階建養蚕農家が並ぶ歴史ある集落にとけこむように泊まる」ことができます。TEL 079-669-1650。

二宮神社・大福寺

小高い尾根に大福寺と二宮神社があります。大福寺は、瓦葺宝形造りの観音堂で宝暦4年(1752)の建築といわれます。二宮神社本殿は、こけら葺の入母屋造り、文政11年

(1828)の建築です。中井権次正貞と中井正用の彫刻があり、兵庫県登録文化財です。また、裏山は大杉城です。

大杉ざんごこ踊り

8月16日に行われる伝統行事です。13時頃公民館を出発、二宮神社まで集落内を行進し、神社境内では16時頃まで太鼓を叩きながら踊ります。学問的には「風流太鼓踊り」です。兵庫県指定民俗文化財、国選択無形文化財です。約6km西の若杉集落でも、同時刻に若杉ざんごこ踊りが奉納されます。

大杉公民館

昭和37年建築の平屋建てで、外壁が板張りの公民館です。ざんごこ踊りの練習場があって小学校のように見えます。敷地にある鉄骨の火の見やぐらは、大杉の景観シンボルです。見学者はこの駐車場を利用してください。

◆周辺の施設

大屋蔵垣かいこの里

かいこの里交流施設と上垣守国養蚕記念館があります。桑の葉うどんなどの軽食ができます。6月前半に「かいこウィーク」を開催します。開館日は3月から12月の土曜日・日曜日、TEL 079-669-1580。記念館は水・木・金曜日、1月・2月も開館。

おおやアート村・ビッグラボ

旧八鹿高校大屋分校の廃校を利用したアート施設。企画展示やワークショップの手作りアート体験ができます。各種アートイベントも開催。休館日は水曜日。TEL 079-669-2449。

養父市役所大屋地域局

明延鉦山、一円電車、天滝、あゆ公園、加保坂のミズパシヨウ、樽見の大桜など、養父市大屋町の観光情報の問合せは大屋地域局へ。TEL 079-669-0120。